

○議長（石橋英和君）順番7、1番 今城君。

〔1番（今城敏仁君）登壇〕

○1番（今城敏仁君）ただ今、議長のお許しをいただきましたので、通告に従い、3点質問させていただきます。

まず、各地で起こっております豪雨災害で被害に遭われた皆さま方にお見舞いを申し上げます。特に、広島市においては72名の方々がお亡くなりになり、2名の方がまだ見つかっておりません。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、一刻も早く見つかりますように、そして、今なお避難生活をしていらっしゃる方々が元の生活に一刻も早く戻れますように願っております。

8月1日に菖蒲谷の普賢寺で、やそしま丸遭難事故50回忌にお参りをさせていただきました。家内の友人の旦那さんが、その船で事故に遭ってお母さんと妹さんを亡くされております。彼の50年はとても言葉では言いあらわせない時間であったろうと思います。先日、奥さまがお見えになり、「お参りありがとうございました」とごあいさつをいただきました。旦那さんはいかがですかとお伺いしたところ、気持ちの一区切りがついたようですとおっしゃっていました。このような事故が二度と起きないように願うとともに、亡くなられた19名の方々のご冥福をお祈りします。

それでは、通告に従いまして、1番目の、高野口を中心にした地場産業の振興について質問いたします。

高野口のパイル織物の歴史は、明治10年に、織物業に携わっていた前田安助氏が、大阪の商館で目に入れたスコットランドで生まれたシェニール織を参考にして独自に織り方を創

案した「再織り」と名付けた織物から始まりました。明治の揺籃時代から今日まで140年の間、明治、大正、昭和、平成と4代にわたる時代を風雪に耐え、生き抜いてきました。幾多の山坂がありましたが、通貨等の問題などで物づくりが海外で行われるようになった20年ぐらい前から、業績が極端に悪くなり、事業所数も毎年毎年減る傾向にあります。しかし、私は高野口の物づくりは世界一だと思っております。

先月の8月18日、19日に、経済建設委員会で岡山県の総社市と真庭市に行政視察に行っていました。橋本から南海電車に乗り難波に。難波から市営地下鉄で新大阪に。新大阪からは新幹線のぞみ号で岡山駅へ。そして、伯備線で総社市へ。その後、伯備線から姫新線に乗り継ぎ真庭市に入りました。どの電車のシートも高野口で生産された「モケット」という生地が使われていて、耐久性にすぐれた高品質な織物であることを再確認しました。

「橋本市産業基本条例」にありますように、「産業の振興は、グローバルな観点から、事業者自らの創意工夫及び自助努力を基に、事業者、経済団体、市民及び市が協力し、総合的なまちづくりを推進していくことを基本理念とする。」とあります。

市長におかれましては、広報6月号で、地場産業振興センターを活用し、関係団体、企業に参加を呼びかけ、「チーム橋本」として民間行政が一体となって橋本市を全国、海外へ売り出してまいりますとおっしゃっております。地場産業振興センターを活用されて「チーム橋本」として、今後どのような政策を進めていかれますか。お聞かせください。

2番目は、バイオマスエネルギーの活用についてでございます。

国家戦略本部「2030年の日本」検討・対策プロジェクトの中間報告の中に、「環境の変化」、「森林の果たす役割が大きくなり、合理化された林業・バイオマスエネルギー産業が発展し、地方に雇用を生む。」とあります。橋本市の基本目標3、「豊かな自然と共生する均衡あるまちづくり」の中で、循環型社会を形成する再生可能エネルギーの普及の推進とありますが、山間部に位置する橋本市は、木質バイオマスの原料である資源が豊富にある地域です。環境に負荷のかからない循環型社会を形成するために、太陽光発電システムやバイオマスエネルギー、地熱発電、風力発電などを使い、「化石燃料から持続可能な多様な資源エネルギーへの変換」が必要ではないかと考えます。橋本市も木質バイオマスエネルギーのあり方を考えてはいかがですか。

3番目は、橋本市長期総合計画、後期基本計画について。

HMP48の活動について、どのような活動をされて、後期基本計画にどのように反映されておられますか。お聞かせください。

以上でございます。

○議長（石橋英和君）1番 今城君の質問項目1、地場産業の振興に関する質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）地場産業の振興についてお答えします。

アベノミクス効果の浸透により、景気回復のすそ野が広がり、景況感が緩やかに持ち直しつつあるものの、市内事業者の多くは依然として厳しい状況下にあります。

そこで本市では「地場産業の振興と企業誘致に取り組み、地域経済の活性化と雇用拡大

を図り、元気なまちづくりに取り組む」ことを市長の重点政策と位置付け、新産業の創出、新商品の開発、地場産品・特産品のブランド化、販路開拓等に取り組んでいく意欲ある農業者・企業等を支援していきます。そのため、さきの6番議員の質問にも答弁させていただきましたが、本議会において橋本市産業振興基金を活用できるよう条例を改正し、新たな補助金を創設することとあわせて準備を進めています。

さらに、本市特産品等のPR・販売を促進するため、ふるさと納税、橋本応援寄附金を拡充し、市内の経済団体及び事業者と一体となって、本市の魅力ある「ふるさとプレゼント」を選定しているところです。

また、本市の伝統産業であるパイル織物及び再織りは、世界的に見ても非常に品質の高いものでありながら、地域ブランドとしての認知度がまだまだ低いのが課題です。現在、本市が牽引役となって、既存産業の地域ブランドを商品化するために企画・販売にすぐれた事業者とのマッチングを支援し、再織りの最終製品化に向けて産官連携して取り組んでいるところです。

平成27年度からは（仮称）橋本営業推進室を橋本市地場産業振興センターに設置し、行政と民間団体が一体となって取り組む「チーム橋本」が、意欲のある事業者に対して、ブランド化の支援など地場産業の活性化を推進してまいります。

○議長（石橋英和君）1番 今城君、再質問ありますか。

1番 今城君。

○1番（今城敏仁君）ご答弁ありがとうございました。

ただ今ご答弁いただきましたが、せんだって4日ですか、安倍内閣、第二次内閣が組閣されまして、石破地方創生大臣が生まれたわ

けでございますけれども、これからアベノミクスの効果が地方のほうに波及してくるのではないかというふうに思っておりますけれども、我々高野口の、この業界にかかわっておる者は、せんだって和歌山県の有効求人倍率が26年ぶりに1.0を超えたというふうな発表がございましたけれども、この我々の業界におきましては、その有効求人倍率というよりも、そこに働く場所がないぐらい、それぐらい、この織物の関係の業界は厳しい状況でございます。

当局といたしましては、このアベノミクス効果の地方波及及び効果の成果の認識というところで、もう一度ご答弁をいただきたいと思っております。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）ご質問にお答えします。

4月の消費税導入後、個人消費をめぐって地方の回復力の弱さが非常に鮮明になっておると考えております。都市部に比べて賃金上昇が相対的に弱いことに加えて、ガソリン価格の上昇などが消費心理を冷え込ませて、消費全体の弱さにつながっていると思っております。

物価は地方ほど上昇が目立っていると感じますし、地方では家計の支出のうち、ガソリン代や電気代の占める割合が高く、物価を大きく押し上げているように感じております。賃金よりも物価が大きく上がった地方では、消費の停滞が長引くおそれがあると感じております。

そういう意味でも、ただ今議員のほうからありました、新たな内閣改造により、地域創生大臣が就任されたということに対して期待しておりますし、これから安倍総理の、これは生命線になってこようかと感じております。

○議長（石橋英和君）1番 今城君。

○1番（今城敏仁君）どうもありがとうございます。

います。

我々もその辺のところ、期待しておりますので、どうか今後とも我々の産地に対していろんなご助言、また、ご協力をお願いしたいと思っております。

そこで、先ほどもちょっと壇上でお話したんですけれども、我々の産地は素材産地でございます、いいものをつくりながら、一つも我々の高野口という名前が前に出てきません。そこがやっぱり私、一番ネックになっているところではないかと思っております。いろんな補助、助成、橋本市、和歌山県に後押しをしていただいて、東京、また海外で展示会等も行っているんですけども、私思うところ、先ほど森下議員のほうからもございましたように、我々素材産地であるがゆえに、我々のほうから提案型の商売ができていなかったというのが一番のネックではなからうかと思っております。

先ほども、ほとんどの電車、バスのシートは今も高野口のほうでつくってございます。大手に入りますので、我々がいいものをつくっても、その名前が全国には届いてございません。それから、きのうもちょっとあったんですけども、高野山のほうでちょっと再織りの説明をしておりますと、皆さん、「さをり織り」ですかとおっしゃるんです。「さをり織り」という厚生労働省が推し進めたいという施設で、体の不自由な方でも織れるということで、かなりすそ野が広がって「さをり織り」が有名になっているので、ちょっと言葉が似てますので、「再織り」とは「さをり織り」ですかとおっしゃるんです。その辺のところもまた皆さんもぜひ織物の知識、認識をしていただいて、ご説明をしていただけるようであればうれしく思います。

それから、せんだって真庭市に行ったときに思ったんですけども、真庭市役所に入りますと、2年前にできた庁舎がございまして。入

りますとすぐに自動車、ヒノキでつくった木製の自動車が置いてございました。それから、それぞれの受付のカウンターは全てヒノキでつくられてございます。そして、エレベーターに乗りますと、エレベーターの横の壁ですか、あれもヒノキを使われる。議事場に案内、見せていただきますと、全てヒノキでつくられてございます。そこに入りますと、「あ、このまちは木材、材木の、木材業が盛んなまちやな」ということは一目でわかりました。

ぜひ、この橋本市も、高野口のパイル織物のモケットという素材で椅子張り、それこそ国会議事堂の椅子から始まりまして、サントリホール、その他いろいろな公共、また文化施設では高野口の織物が使われてございます。このこもとの橋本市で、どこの場所へ行ってもその生地を目にすれば、橋本は織物のまちやな、高野口は織物のまちやなということを理解していただけたらと思います。ぜひ、その辺のところ、まあ予算もかかってくる、予算の問題もあると思うんですけども、その辺のところ、市長、いかがでございませうか。

○議長（石橋英和君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）今城議員の質問にお答えします。

本当にそうやとは思いますが。ただ、この橋本市のところはすべて再織りを使うということはなかなか難しい側面もあります。今、市長室であるとか市役所内部にも、これはパイル織物を使っておりませうというふうなことを告知しております。

これから、私がなぜ「チーム橋本」として地場産業振興センターをつくるのかということ、特に高野口のパイル織物の再織りにつきましては、やっぱり素材産業であると。これは間違いなくそうなんです。そして、それがゆえに完成品じゃないから、展示会でオーダーさ

れても、そのシーズンが来たときにそれが果たして製品に変わるかというのが、やはり流行的な流れもありますから、それは難しい側面もあるというふうには認識してませう。

先ほども答弁させてもらいましたように、今、style Y2という東京の事業者に今お願いをして、高野口の素材を使った新しい商品ができませんかというふうな取り組みをさせていただいております。間もなく提案もあると思ひますし、これは高野口だけじゃなくて、へら竿もそうなんですけども、伝統的工芸品に指定された竹細工の技術をいかに生かしていくかということも、これは同時に今、考えているところであります。

私どもとしても、この地域の産品をいかにして、いいものをいかにして発信していくかという課題を常に持っています。私も物を売る仕事をしておりませう。特にアパレル関係の仕事をしておりませうので、展示会等に行つて素材とかを見てましかつけども、いざでき上がつてきたときに、その素材でつくつたものが売れるか売れへんかというのは、やっぱりそのときにならないとわからないし、これはちょっと流行的なもので無理ですよということで、逆に商品化されないケースもありますので、やっぱりこれからというのは、そういうふうには半製品から製品化していくという流れをしっかりと考えていくというのが大事やと思ひます。

もう一つは、パイル織物、再織りというすばらしい技術を使った産品を異業種のほうに考えていくことができないかということも、これから考えていくことでは必要ではないかと。例えば、公共事業のそういう中で、この技術を使った素材で新産品を開発していくという部分も、これ、大変大事なことやと思ひます。

今まで橋本市見てたら、商工会、商工会議

所も、どちらかというとはらばらの取り組みをしてました。そういうことはもうこれからはやめようよと。私どもとしては、やはり民間の皆さんと一緒に、この橋本市のすばらしいものを全国へ発信していきたいということで、これからは商品の発見もせなあかんのですけども、そういうのをしっかりとやっていきたいというふうに思ってますし、10月から2人、県のほうへ研修に行かせますし、今考えているのは、県から1人送り込んでもらおうかなということも、今現在、県の人事課長とも話をさせてもらってます。

これは、もうばらばらでやるんじゃないくて、地場産業振興センターを中心として、地域の皆さんとも、企業の人もそうですし、商工会、商工会議所もそうですし、その他先ほど5番、6番議員からも起業家の話もありましたけども、そういう中で、地域おこし協力隊がいいのか、逆に今回条例提案させてもらっている民間人の採用をしていくのがいいのかということも、これから十分議論した上で、来年4月から稼働していくように考えておりました、なかなか二、三年はかかるかなというふうには思ってますけども、そういう面で、橋本のいいものを売り出していくということも考えておりますので、まだなかなか具体的にはと言われますと、とにかくいいものの発見というのが大事やと思いますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○議長（石橋英和君）1番 今城君。

○1番（今城敏仁君）ありがとうございます。お聞きしようと思っておったこと、先にご答弁いただきまして、ありがとうございます。

今、市長のほうからご答弁がございましたんやけど、先ほど森下議員が言ったように、我々産地でおりますと、あるものがあって当たり前やという感覚になってございまして、

よその方の感覚、第三者の目が一つも今までかかわってこなかったわけでございます。最終製品をつくったり、地域のブランド製品をつくるのに、先ほど、地域おこし協力隊をとという森下議員の質問がございましたけども、私もそのとおりであるというふうに思っております。

その場所におるとわからない、昔から、何年前前から地域をおこすには、よそ者、若者、ばか者がいなければ地域は活性化しないということがございました。多分、この地域おこし協力隊はよそ者になるであろうと思います。それから、ばか者は、最盛期には、三十数年前には400軒から500軒、この業界にかかわっていたわけでございますけれども、今はもう多分40軒から50軒の間やと思います。私、今もそうやって頑張っておる企業なり機屋は、ばか者やと思います。我々も含めてそうやと思います。ですから、ここにまた若者もかかわっていただいて、この明治以来続いてきた、先人が築き上げたこの織物のまちを、我々ここで灯を消すわけにはいきません。国民の経済活動でございますので、行政に何してくれ、あないしてくれということもおこがましい話でございますけれども、ぜひそういうところでよそ者の目を、また、この地域おこし協力隊等々使って、また、いろんな助成金等で、そういう方々がこの我々の地域にかかわっていただけたらうれしいかなというふうに思っております。

それと、先ほどちょっと言い忘れたんですけども、とにかく我々この産地であるのに、橋本の人、高野口の人もどんなものをつくっているか知らないんです。ですから、10月には、また原宿のほうでぶわぶわ展、開催されるようですけども、そのような同じような企画で、一度また産業文化会館等を利用して、この地域の人にぜひ、この高野口の織物はこ

ういうふうな織物をつくっていて、こういうふうなところに利用されているということ、私はPRできたらなと思います。一番、最終消費者の方が、またこういうふうな使い道があるよというアイデアをいただくのが一番ありがたいかなと思います。

そういうところで、また行政の橋本市におかれましては、我々の業界にいろいろとまた後押ししていただきますようお願い申し上げます、この1番目の質問を終わらせていただきます。

以上でございます。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、バイオマスエネルギーの活用に関する質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）木質バイオマスエネルギーの質問についてお答えします。

バイオマス資源については、家畜ふん尿・食品廃材・生ごみを使う廃棄物系バイオマスと、飼料作物・わら・間伐材を使う未利用バイオマスがあり、どちらも再生可能エネルギーの資源となります。

再生可能エネルギーは、バイオマス以外にも太陽エネルギー、水力発電、風力発電、地熱発電などがあります。木質バイオマスのメリットは、他の再生可能エネルギーと同様、化石燃料の削減、地球温暖化防止への貢献、廃棄物処理費用の削減等があり、それに加えて健全な森林の育成、保水、防災効果等があります。逆に木質バイオマスのデメリットは、伐採、搬出、運搬の困難性、資源の安定供給、木材の含水率・サイズ等の不均一による規格成型、加工処理場の臭気等が課題です。

木質バイオマス事業の取り組みは、事業者だけでは推進が困難であり、議員おたのしの森林組合はもちろん、農林関係事業者・団体、

その他商工団体、行政、そして市民の理解、協力のもとに成立するものと考えられます。

岡山県真庭市では、バイオマスタウン構想を立案し、まちが一体となってバイオマス利用に取り組んでいます。

橋本市が真庭市と同様に木質バイオマス事業を考えてはどうかというおたのしですが、森林面積が7,746haもあるという本市の地域性、森林の状況を考えると有効であると考えますが、エネルギーインフラが比較的安定している橋本市の状況で、中小企業の代替エネルギーへの利用転化投資も厳しく、大規模住宅開発地のエコタウン化や、新たな公共施設の再生エネルギー利用など、大きな需要の見込みが将来予測できない中での取り組みは、非常に難しいと考えられます。

○議長（石橋英和君）1番 今城君、再質問ありますか。

1番 今城君。

○1番（今城敏仁君）ご答弁ありがとうございます。

今、部長ご説明のとおり、私もこの木質バイオマス調べれば調べるほど、いろいろと長所・短所がございます。

ちょっとここに、せんだって、それこそ真庭市の本庁舎、エネルギー棟というのがございまして、この真庭市は木質バイオマスで空調をやっているそうでございます。お伺いしたところ、空調を重油で、化石燃料の重油でやりますと、だいたい年間800万円から900万円ぐらいがかかるそうでございます。そして、この木質のバイオマスのボイラーでチップとそれこそペレット、本体はペレットで動かして、予備にチップで稼働させているそうでございますけれども、そのチップ、ペレット等の材料費で年間400万円から500万円かかるというそうでございます。そして、このボイラーの保守点検に県内の業者が来て保守点検す

るのに、年間で約80万円ぐらいかかるということでございます。単純に計算しますと、重油でやるよりも300万円前後が安くなるということでございます。

しかし、このボイラーを敷設するのに約2億2,000万円かかってございます。国の補助が半分ですので、1億1,000万円がかかるわけでございます。単純に計算して300万円、その1億1,000万円を我々商人で言う償却しようと思ったら、40年という時間がかかるわけでございます。

そういうふうな採算面で考えると、やはりコストが高くつくところもデメリットやなというふうに思っております。しかし、そういうことよりも持続可能な、それこそ地域をめざすのであれば、やはり循環型のそういうふうなエネルギー、先ほど部長がおっしゃいました太陽光、いろんな多様なエネルギーを考えていくというのも一つではないかと思っております。

ここに、この間行った真庭の銘建工業という、これは2011年にNHKのエコチャンネルでやっていた「里山資本主義」という番組で出られてた社長さんの会社でございますけれども、そこが今度は、集成材最大手でございますけれども、真庭市など官民9団体は4日、間伐材など木質バイオマスを燃料とする発電会社「真庭バイオマス発電」を設立したと。出力は木質バイオマスで国内最大の1万kW、2015年4月の稼働をめざす。未利用資源の活用に加え、地域の雇用拡大につながる取り組みとして注目を集めそうだという、云々載っております。資本金は2億5,000万円で、この銘建工業が66%出資して、真庭市が3,000万円出資する。そして木材事業協同組合、森林組合、地元の木材関連団体も企業参加することとでございます。総事業費は41億円で、補助金で16億円借り入れて23億円を調達

するとなってございます。

これのメリットといいますか、そこに書いてある社長の言葉ですけども、このシステムを使って、結局何が一番大事かといいますと、雇用が200人から300人生まれるということとでございます。山から木を搬出する、またそれを集めてペレット化するとか、そういうところで雇用が生まれてくるわけですね。やっぱり雇用が生まれるということは、そこに人がまた定着する。今一番問題の少子高齢化、だんだん人が減ってくるというよりも、ここに雇用を生んで、またこの地域を活性化させたいと。これは単なるお金もうけだけでなく、この社長の哲学、基本はやはりそこにあると思うんです。やはりこういうふうになり成功している町、村では、やはり核になる方がいて、そこにいろんな形で各種団体が協力して地域をおこしていく。このやはり橋本も、そういう意味では今後こういうふうな形でバイオマスを、どういうふうになるかもわかりませんが、考えていかれてはいかがかなというふうに思います。

それぞれがそれぞれの地域でいろんなことをやっております。九州のあの霧島酒造、皆さんお飲みになったら、焼酎の黒霧島をつくっている会社でございますけれども、これも芋焼酎の製造過程で芋くずや焼酎かすを使ってバイオマス発電をしております。自社のボイラー等もそれで熱源をつくっておりますし、それから始まって、今度はまた、もう少しその施設を拡大して、このできた電気を九州電力へ年間で約1億5,000万円売電するという計画らしゅうございます。

やはりそういうふうな、我々この地域・地方は、循環する社会をめざしていかなければ、今後生き残れないと私は思います。その辺のところ、いかがでございますか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○**経済部長（笠原英治君）**ただ今の議員のおただしについてお答えします。

確かにバイオマスの利用というのは、循環型社会を形成していく上で非常に大事な部分やと感じております。

実は橋本市もそれがまったくないんじゃないかと、廃棄物処理の発電という意味では広域のごみ処理場、ここが年間約292万kWの電気を発電しております。今、関西電力のほうに逆潮流、この間までできなかったんですが、現在できるようになり始めて、近々メーターをつけて関電のほうに売っていく、そういう状況をつくっていくようです。

今、ごみ処理場の使用電力量が年間402万kW、約402万kWと言われてますので、70%ほど自分とこのごみ処理場によって生まれてくる電気です。稼働できるという、そういう状況ができません。

このバイオマス、これ以外についても非常に有効であると思うんですが、こういった需要をしてくれる大きな企業が、初期投資の段階でバイオマス発電とか、ほかの利用する、そういう設備をつくっていくのであれば割とスムーズに行くと思うんですが、もともと関電から受電した状態のそういった設備を、このバイオマス発電に切り替えていくということについては、非常に投資が必要になってくるかと思っております。

また、その木質バイオマスであれば、そういった資源をどうやって調達していくか。森林組合なんかにも当然協力してもらいながらするにしても、チップ化やペレット化していくのは、今の状況では非常に難しいと思っております。

さらに、ちょっと先ほどの答弁でもお話しさせてもらったように、大きな住宅開発地が今後あって、その部分だけエコタウンにして、もうそういう関電の受電はやめて、

自分ところで災害があったときにでも発電しながら自力で生活できるんやと、そういうまちが形成できるような、そういう状況になれば、こういったバイオマスの事業というのは非常に有効になってくようかと思っております。

ただ、現状なかなか開発が進んでない状況、住宅開発が進んでない状況とか、今の中小企業の状況を見ますと、なかなか投資的な部分でも厳しい状況ではないかなというふうに感じております。

以上です。

○**議長（石橋英和君）**1番 今城君。

○**1番（今城敏仁君）**ありがとうございます。

それから、私もその辺のところ、わかって質問させていただいておるんですけども、このお隣のまちの河内長野市、それからお隣の五條市は、バイオマスタウン構想として協議会をつくっているいろいろと動いているみたいなんですけども、本市もそういうふうな意味で、そういうふうな協議会をつくってバイオマスエネルギーについて考えていくというふうなお考えはございませんか。市長、ちょっと済みません。

○**議長（石橋英和君）**市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○**市長（平木哲朗君）**今城議員の質問にお答えをします。

今、河内長野市、五條市、橋本市として3市協ということで広域連携に取り組んでおります。私も勉強不足で、その辺については全く知りませんので、一度どういう状況にあるのかというのは確認をしていきたいと思っております。

私も、バイオマスについては、県議会議員のときに大分県の日田市やったと思っておりますけども、行ってまいりました。やっぱり基本的にあるのが、林業の盛んなところ、また、製材所があるというふうな、かなりの条件が必

要かなというふうに思っています。

で、橋本市において、そしたら林業の従事者がどれぐらいいるかという、本当にもう寂しい限りで、橋本市の山については、なかなか手を付けていない場所も多いというような問題もあるし、現在、製材所というのほとんど存在をしていないように認識をしています。そういう意味で、また、やはり先ほど部長が答弁しましたように、そこを引き受けてもらえるような企業が果たして木質バイオマス事業についてこの橋本市を見たときに、損益が乗ってくるのかという問題も十分検討しないといけないと思います。

補助金があるからやるという考え方ではなくて、本当にそういう、需要として利益が上げられるようなものであれば検討に値するというふうには思いますが、現状ではなかなか環境的には非常に難しいのかなというふうに思っています。

今、五條市と河内長野市がやられているという、構想を持っておられるということなので、一度どういうことをやられているのかということも含めて、また三市で一緒にできへんかなというような広域的な取り組みもあってもいいのかなというふうに思いますので、ちょっと時間をいただければと思います。

○議長（石橋英和君）1番 今城君。

○1番（今城敏仁君）ぜひ、そのように今後お考えをいただきたいというふうにお問い合わせ申し上げまして、この2番の質問を終わらせていただきます。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目3、橋本市長期総合計画の後期基本計画に関する質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（北山茂樹君）登壇〕

○企画部長（北山茂樹君）橋本市長期総合計画後期基本計画とHMP48の活動についてお

答えします。

現在、本市は平成20年度から10年間のまちづくりの羅針盤として策定した長期総合計画に基づき施策を推進しているところであり、また、平成25年度から後半5年間のまちづくりの主要課題とその対応施策について後期基本計画に反映させています。

この後期基本計画は、「人や企業に選ばれるまちづくり」と、それを可能にする「持続可能な行財政運営」を両輪とし、これに対応した施策を展開していく必要があるとしています。

HMP48の活動は、後期基本計画の両輪とした施策を展開する一助となるよう、四つの柱と八つの分野を設けて、「今後のまちづくり」と「それを補う財源の確保」について具体的な提案を行っていかうとする取り組みであり、期間を最長3年に限定し、昨年度より取り組んでいるところです。昨年度は六つのプロジェクトを立ち上げています。

各プロジェクトの活動内容についてですが、一つ目のKNW、これは京奈和の頭文字をとったものです。「KNW Studying Project」は、関西大環状道路の一部を形成する京奈和自動車道の開通を好機ととらえ、「京都学」「奈良学」「和歌山学」などについて学識経験者も交えながら調査、研究を行い、将来の橋本市の魅力あるまちづくりを戦略的に創造し、提案することを目的としたプロジェクトです。

二つ目の「チャリde橋本」ですが、近年、健康づくり等を目的として、自転車に乗る人が増えています。また橋本市は、北は金剛・葛城山地、南は霊峰高野山に囲まれ、市の中央を東西に紀の川が流れており、大変自然に恵まれた環境にあります。そんな橋本市の魅力をチャリ、いわゆる自転車を使って再発見し、魅力ある橋本市をPRし、地域振興や定住促進に活用することを目的としたプロジェ

クトです。

三つ目の「HASHIMOTO No. 1 計画」ですが、田舎で何もないと日々感じている「当たり前の生活」の中から、自分たちが気づいていなかった「魅力」を再発見し、心豊かに生活できるライフスタイルが実現可能なまちづくりをめざします。主に若者世代をターゲットにした、定住促進や市の情報発信に活用できるコンテンツの作成等に取り組むプロジェクトです。

四つ目の「庁内業務の近未来プロジェクト」ですが、昨今の課題として、地方公共団体は庁内業務の運用コストの削減を図りながら、一方では多様化・高度化する住民ニーズへの対応を図っていく必要があります。これらの相反する課題の解決策として、他自治体で実施しているアウトソーシングの導入について、先進事例等を参考にしながら検討していくプロジェクトです。

五つ目の「ハコモノわくわく探訪プロジェクト」ですが、人口減少、少子高齢化をはじめ施設の老朽化や東南海、中央構造線地震に対する備え、財政難など、近年の公共施設を取り巻く課題は山積しています。そこで、橋本市公共施設の現状を把握した上で、公共施設の今後のあり方について、若者目線を生かした検討等を行うプロジェクトです。

六つ目の「スッキリ！快ZENプロジェクト」ですが、職員自らが創意工夫により、業務の効率化、職場環境の向上、財政運営の向上などに一層取り組むことで、全庁的に波及させ、市民満足度と職員満足度を高めることを目的としたプロジェクトです。

平成25年度の活動実績としては、「今後のまちづくり」として、サイクリングロードマップの作成、自転車を使ったアウトドア型の婚活イベントの提案、地域資源を生かした定住促進対策や外国からの知名度を高めるための

提案、京奈和自動車道・国道371号の開通を見据えた将来の橋本市の姿、つまり、本市は住んで良いところ「便利な田舎」として情報発信していく提案などを行いました。

また、「それを補う財源の確保」として、庁内窓口業務のスマートストップ化に対する提案、本市公共施設、いわゆるハコモノの現状を分析し、今後の更新費用等に係る課題を取り上げ、独自の提案を行いました。この活動資料は、公共施設等総合管理計画に活用できる成果品となっています。また、業務改善の手引書「スッキリ！快ZENハンドブック」を作成し、その一部について実践を行い、庁内業務全般に広げる取り組みを行いました。

チーム員の平均年齢が30歳前半と若い世代で構成され、また、通常業務とは異なり、各部署を超えた職員同士の横断的なつながりもあり、この活動の過程で得られる成果も大きかったと考えています。また、今年度から、六つのプロジェクトに加え、戦略的な情報発信に特化し、橋本市を売り込むためのノウハウを調査・研究することを目的とした「橋本市営業部シティセールス推進課」プロジェクトを新たにスタートさせており、計七つのプロジェクトを鋭意進めているところです。

今後の取り組みとしては、それぞれのプロジェクトにおける提案を深く掘り下げ、計画の整理と試行、導入に向けた実効性の検証、そして新たな提案に取り組むこととしていますので、ご理解をお願いします。

○議長（石橋英和君）1番 今城君、再質問ありますか。

1番 今城君。

○1番（今城敏仁君）ご説明ありがとうございました。

私、恥ずかしい話ですけども、議員になってはじめて橋本市の長期総合計画を見たわけでございます。それからほうぼうの長期総合

計画を見ておりますと、だいたいどこも同じようなことが書いてございました。

その中で、このHMP48のコンピュータで見えておりますと、なかなか楽しく若い目線でいろんなことを考えられておられて、あ、こういう若い人がいるんやと。これをもっともって橋本市のために彼らが、仕事が終わってからとかいうふうに書いてございましたけれども、この橋本市のために、若い力でそういうふうなプロジェクトを頑張っていたきたいなというふうに思ったわけでございます。

それから、先ほど言いました我々の産地の高野口も、その若者にまたかかわっていただきまして、また我々が気づかない方向性をご助言いただけたらありがたいなというふうに思います。

以上でございます。ありがとうございます

た。

○議長（石橋英和君）1番 今城君の一般質問は終わりました。

○議長（石橋英和君）お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ延会し、明9月9日午前9時30分から会議を開くことにいたしたいと思えます。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（石橋英和君）ご異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

本日は、これにて延会いたします。

（午後4時51分 延会）